

令和6年3月14日

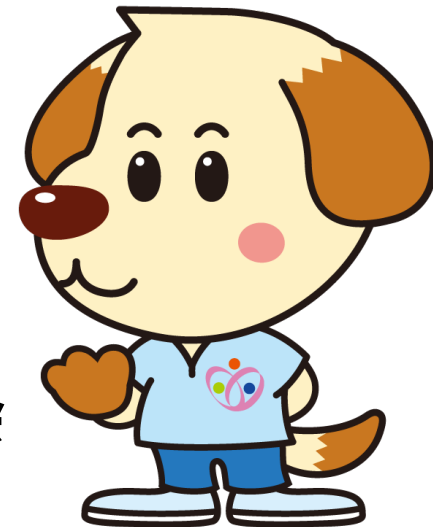
規制改革推進会議
健康・医療・介護ワーキング・グループ

要介護認定の効率化等について



公益社団法人全国老人保健施設協会

会長 東 憲太郎



ROKENくん



公益社団法人全国老人保健施設協会 概要

全国の介護老人保健施設の一致協力によって、地域社会の健全な発展を図り、高齢者等の保健医療・福祉の増進に寄与することを目的として、平成元年に設立された全国組織。平成23年8月、公益社団法人へ移行。

(令和6年2月29日現在)

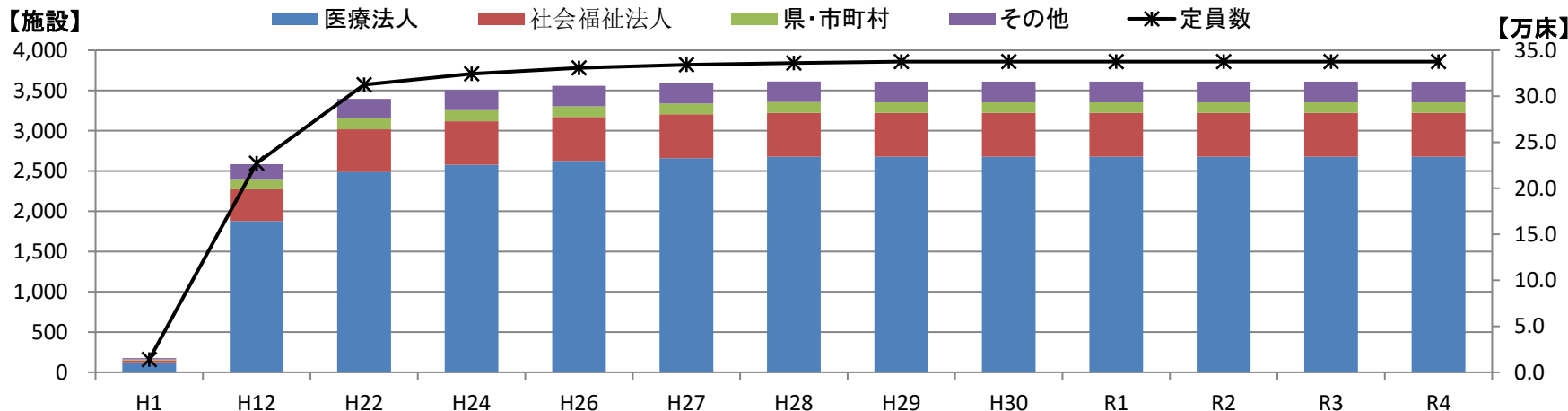
■ **全国の正会員施設数 3,558施設**
(老健施設開設施設数 3,993施設)

全老健加入率 89.1%

設置主体状況

医療法人	2,661施設	74.8%
社会福祉法人	548施設	15.4%
都道府県・市町村	113施設	3.2%
その他(公益法人、済生会、厚生連、赤十字社等)	236施設	6.6%

<会員施設の推移(平成元年度～令和4年度)>



要介護認定の課題①

【自立支援の本来あるべき姿ではない】

- 要介護認定は、国際障害分類：ICIDHに基づく【障害穴埋め型】の評価を基に作られたものである。
- 障害があり、できないことを評価し、そこを補う考え方（介護保険の理念、尊厳に反する評価となっている）
- 評価のなかには、「見守り」「一部介助」のように人によって判断が異なる可能性が高い選択肢となっているものがある。
- WHOでは、ICIDH（国際障害分類）から、ICF（国際生活機能分類）へと考え方が変わっているにも関わらず、日本では古い考え方で作られたものを、今でも使っている。
- ICFでは、できること、やっていることを評価する【能力サポート型】の考え方である。
- 上記のことから要介護認定の評価項目・調査項目を抜本的に見直すべき

要介護認定の提案①

- 要介護認定も「障害穴うめ型」⇒「能力サポート型」へ評価項目を見直すべき
- 認知機能を評価の拡充を

旧「自立支援」(障害穴うめ型)

新「自立支援」(能力サポート型)

ICIDH(国際障害分類)

ICF(国際生活機能分類)

International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps

International Classification of Functioning, Disability and Health

要介護認定基準公布

WHOより
ICF発表

全老健において
「ICF ステージング」完成

[自立、見守り、一部介助、
全介助の考え方]

[何がどこまで可能で、
何をやっているかという考え方]

1998年

2001年

2010年

要介護認定の課題②

（介護現場）認定が確定するまでの期間が長すぎる

●新規申請をしてから要介護認定が確定するまでの期間が三重県津市では2年前くらいから3月間かかっているのが現状

- ・ 要介護度を申請中の方が入所してきた場合、見込み（要介護度が付く見込み）で入所させるが、その方が急変等して、要介護度が付く前に亡くなってしまいうケース
- ・ 確定してみたら、要介護度が付かず、施設入所対象外の要支援だったケース

上記のようなケースではご家族に自費請求することになるが拒否されるケースもある。

●訪問調査員の委託を社会福祉協議会のみへされているケースもある。（人材不足）

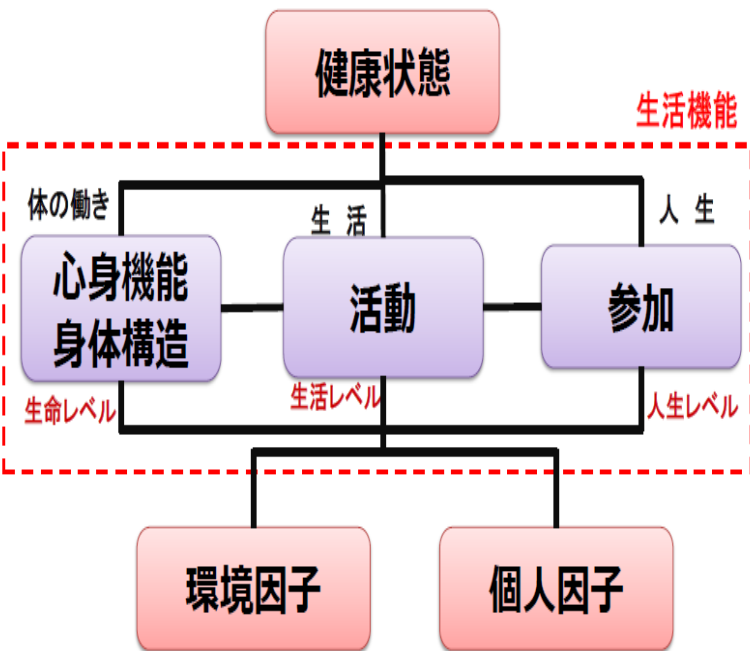


訪問調査員を、関連（影響）のない施設等にいるケアマネ等にも拡大

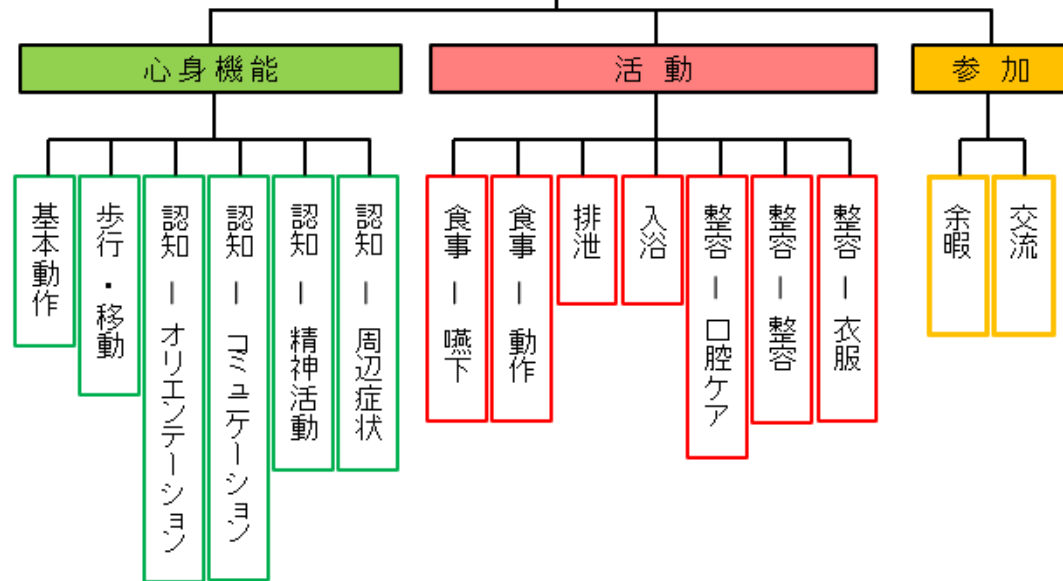
要介護認定の提案②(認定調査の“ICT”“AI”化)

国際生活機能分類 (ICF)

生活機能構造モデル



ICF ステージング



- ① 「している」「していない」の評価で、心身機能・活動・参加について簡易に評価できる。
- ② 認知症においては、主として認知機能の残存能力を評価している。

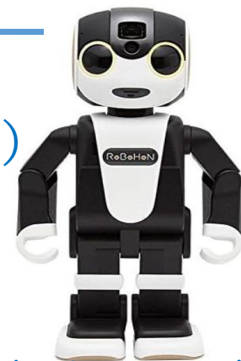
【置き型ロボットによる一次判定の調査】

- ・ カメラ搭載 (ICFの考え方に基づく身体機能の評価)
- ・ 音声認識 [会話機能] 搭載 (認知機能の評価)
- ・ AI搭載 (上記情報を分析し一次判定)

居宅等に設置しデータ収集&分析



(置き型ロボットイメージ)



(置き型ロボットイメージ)

現状

図表 1 要介護認定の基本設計の考え方

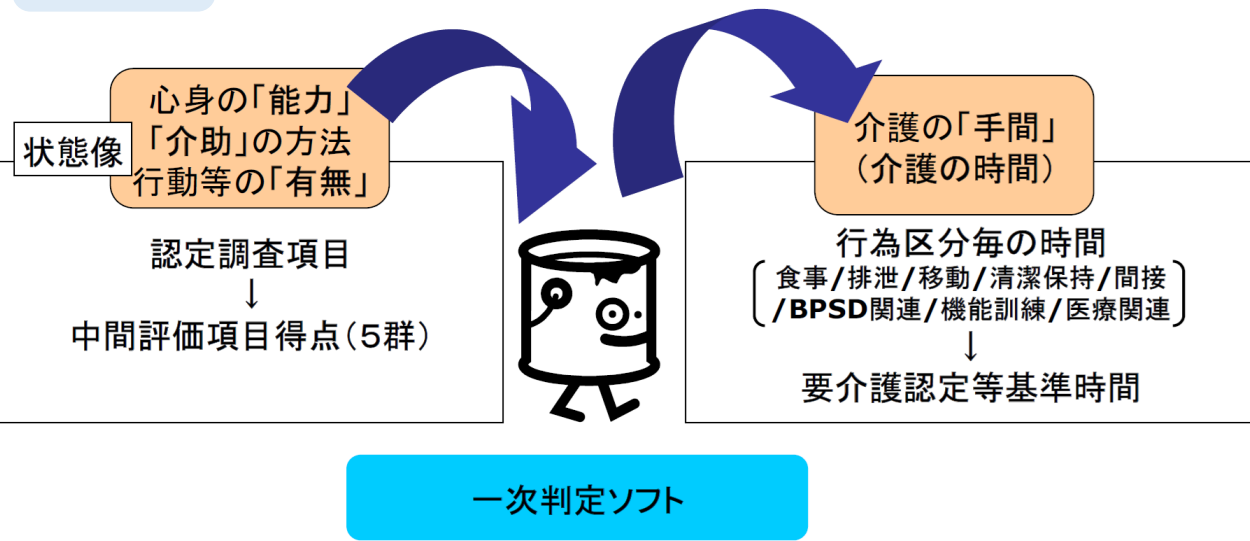


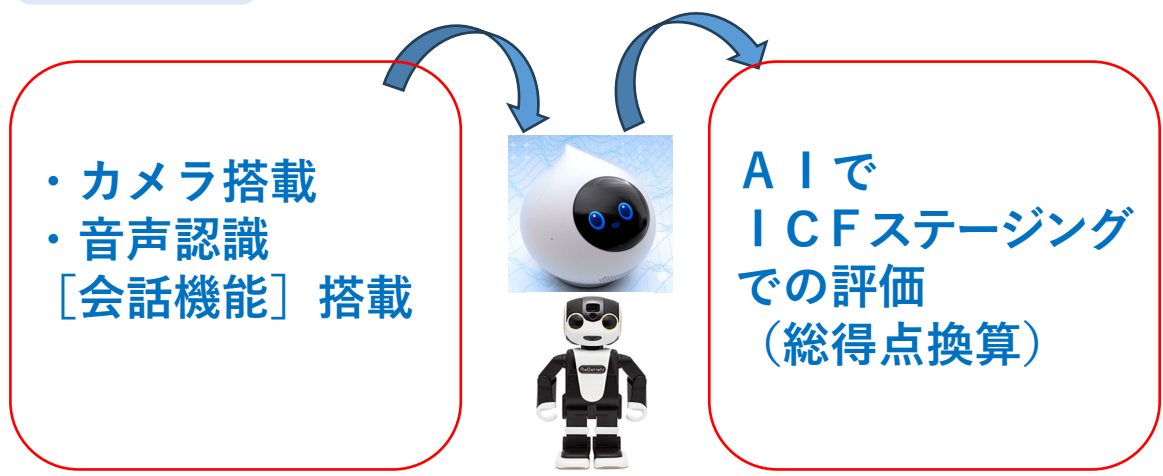
表 11 要介護状態区分等と要介護認定等基準時間との関係

区分	要介護認定等基準時間
非該当	25分未満
要支援 1	25分以上 32分未満
要支援 2・要介護 1	32分以上 50分未満
要介護 2	50分以上 70分未満
要介護 3	70分以上 90分未満
要介護 4	90分以上 110分未満
要介護 5	110分以上

↓ 重度化

(出典) 介護認定審査会委員テキスト2009改訂版 (厚生労働省)

提案



区分 (仮)	能力スコア (ICFステージング総得点)
自立度 5	57点～70点
自立度 4	43点～56点
自立度 3	29点～42点
自立度 2	15点～28点
自立度 1	14点

↑ 自立

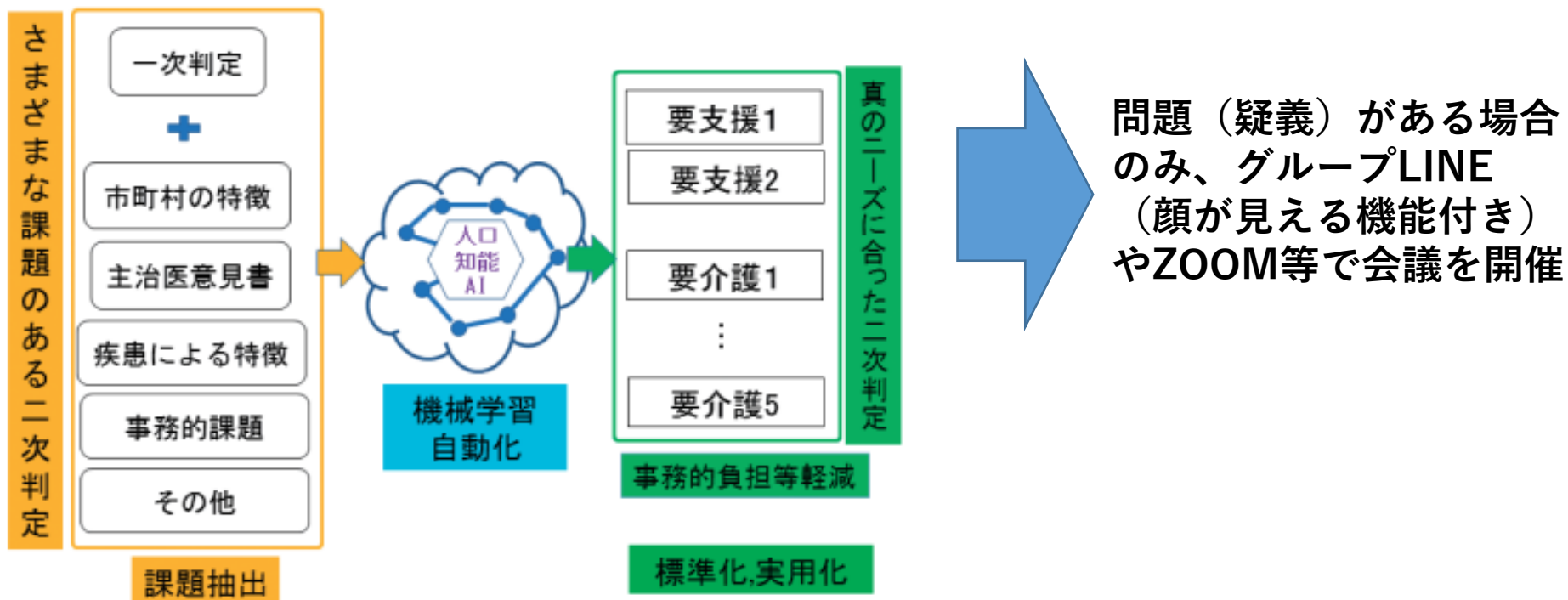
要介護認定の提案③(二次判定の“AI”活用)

「主治医意見書」や「特記事項」を踏まえ、自動的にAIで二次判定を

一次・二次判定も1本化できるのでは？

(イメージ)

人工知能(AI)技術を導入した「自動二次判定システム」を開発し、要介護認定をサポートする



(参考：AMED長寿科学研究開発事業)